

【参加者】 □□□□□、S  
□□□□□、会計・□□□  
□□、記録・□□□□、□  
□□□□、□□□□、□□  
□□□□、□□□□ (八名)  
【行動】 昨年九月二十三日  
～二十四日に実施する予定  
であったが、天候不順で中  
止になった。今年は、八月  
二日～三日に計画された。  
七月三十一日、□□さんよ

り、「二日～三日の吾妻線  
走予定通り実施する。」と  
メールが届いた。

八月二日午前六時三十  
分、□□莊に集合する。□  
さんのワゴン車に各自荷  
物を積み、□□□□ (リーダー)・□□□□ (サブリ  
ーダー)・□□□□ (会  
計)・□□□□ (記録)・  
□□□□・□□□□・□



吾妻神社（西吾妻山）、撮影・□□

から、元気な声が聞こえた  
かと思えば、高校生十数人  
のグループが追い越していく。  
樹林帯を抜けて西大嶺  
に十二時十五分に到着。展  
望が良く、磐梯山、西吾妻  
山を眺め、クーラーボック  
スに凍らした飲料水と一緒に  
入れて来た冷やしラーメン  
ンを食べる。冷たくて美味  
しかった。十二時四十五分

いきなり急な登りで、あたりは、ヨツバヒヨドリが一面綺麗に咲き誇っていた。一匹のアサギマダラが歓迎するかの様に気持ち良く舞つていた。再三休憩する。後を見ると東磐梯山、裾には檜原湖がはっきり見る事が出来た。ゲレンデから樹林帯に入る。急な樹林帯で段差がきつく息苦しい。後

運転する□□さんの知人の九人で、午前六時四十分出発。午前七時三十分、グランデコリフト乗り場駐車場に到着。三十人位の登山客が日陰でリフト運行するのを待っていた。車から荷物を降ろし、リフト運行まで時間があるので、朝食を取る。□□リーダーより挨拶があつた後、リフト乗り場山麓駅から山頂駅へ。八時五十三分より登り始める。

●編集部連絡先  
二本松市郭内1-5-5  
(22)4245  
渡辺正  
可  
F a x

即分岐に五時二十分に着く。弥兵衛小屋（明月荘）に六時四十五分到着。辺りは薄暗い。小屋に入ると、消毒用アルコール、マスクが用意されている。一人の男性が横になり休んでいた。小屋は、二階建で一階に男性がいたので、二階に泊まる事にした。二階に上がる梯子が垂直で横渡しの

の西吾妻小屋が見える。(二時十分吾妻神社に着く。一同御参籠を上げ、二日間の安全祈願をし、休憩する。岩が広がる景色になる。楚天岩を通り、高山植物が群生する大凹湿地帯の水場で冷たく旨い水を飲み、給水して人形石に着く。四時二十分。池塘群にワタスゲが点在する木道を進み、藤子

出発。コバイケイソウ、チングルマの咲き終わった花がらや、白、黄、青色の高山植物が咲いているお花畠を通る。左前方に赤い屋根を通る。



人形石 摄影：口口

昭元山十時五分着休憩、十時二十分出発。鳥帽子山を通り、途中十二時十五分昼食を取る。十二時四十分出发。ニセ鳥帽子山一時。家形山へ。眼下に神秘的な魔女の瞳（五色沼）、正面に一切経山を眺め、道を下り、最後の急な登りを経て、一切経山頂へ。滑る力レした道階段を下り、淨土平レスト

荷物を置き、「明月湖をみてしましよう。」といふと、広大な湿原の中の木道を三十分程歩いて行ったが、そこは明星湖で、小屋の前にあるのが明月湖であった。七時四十五分小屋に戻り、準備をして、八時明月莊を出発する。東大顛八時三十五分、大倉新道谷地平峠休憩、九時五分出発。

人形石、撮影  
の夕食。さき  
やかな山行の  
無事を祈って  
乾杯のみの宴  
会を終え、八  
時五十分床に  
就く。  
八月三日五  
時に起床。外  
は、小雨混じりの風があり、辺りはガスっている。五時二十分朝食。そのうち風はおさまり、霧雨になる。六時五十分、小屋にリュック、

木が細く  
裏が痛い。ヘ  
ッドランプを  
点け、トイレ  
を確認。ヘッ



2日目、家形山にて、背景は一切経山と五色沼、撮影・口口

ハウス駐車場五時二十分  
全員無事到着。駐車場で口  
口さんの奥様が車を回して  
待機していた。乗車。口口  
六時三十分到着。荷物を  
降ろすと、奥様より「お風  
呂へどうぞ」と言う事で、  
男性四人は快くいただく。  
女性三人は、時間が無いの  
で荷物を積んだところで、  
解散となる。風呂をいただ  
いた後、口口さんに御礼し、  
口口さんと別れ、  
口口さんとカブトムシ採り  
に行く。口口さんに「カブ  
トムシ六十四いるけど」と  
話すと「孫が近日に家に来  
るから欲しい」との事。し  
かし、家にいる六十匹は、  
二週間前に採ったものなの  
で今日採った方が元気があ  
ると思い、山に行くことに  
したのだった。途中、カゴ、  
餌、土を買い、懐中電灯、  
ヘッドランプを持ち、山に  
入る。木々を照らすと、「ワ  
ーツ、ウオーツ」の口口さ  
んの声。忽ち、十四、二十  
匹とカゴの中が窮屈にな  
る。二十分位で三十四匹採  
り、終わりにする。ここで  
口口さんとも別れる。自室  
に帰って来たのは、九時近  
かった。喉を潤し、山行を  
自分なりに振り返る。いろ  
いろあったが、自然の美し  
さを満喫。少年時代を思い  
起すシーンもあって、樂し  
い二日間だった。

